



小平市立花小金井南中学校  
地域開放型体育館建設  
及び  
小平市立花小金井武道館機能移転  
の基本方針

平成28年2月  
小平市



# 目次

はじめに	.....	1
花小金井南中学校の概要	.....	3
1. 学校概要と施設の現状	.....	3
2. 取得した土地の概要	.....	3
3. 近隣の土地利用状況	.....	4
4. 人口動態と生徒数の推計	.....	5
花小金井武道館の概要	.....	7
1. 花小金井武道館の概要と施設の現状	.....	7
2. 花小金井武道館の利用状況等	.....	8
新しい時代要請の視点	.....	9
1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック	.....	9
2. 公共施設マネジメント	.....	9
事業実施の方向性	.....	11
1. 花南中拡張用地は学校用地として整備	.....	11
2. 花南中に地域開放型体育館を整備	.....	11
3. 花小金井武道館の機能を移転	.....	13
4. 地域開放型体育館の活用	.....	13
今後の予定	.....	14

# はじめに

小平市（以下、「市」という。）では、花小金井南町一丁目のNTT花小金井東社宅跡地における開発行為により大規模な土地利用の変化が見込まれることから、地域開放型体育館の建設敷地として、平成22年12月に小平市立花小金井南中学校（以下、「花南中」という。）に隣接する用地を取得しました。この土地は、開発行為と密接な関連があるため、その動向を注視してきましたが、平成27年4月に事業主より、大規模な開発事業計画（土地利用構想）の届出がありました。

花南中の周辺地域においては、今後、人口が段階的に増加することが予測され、学校施設の増築も視野に入れる必要があります。

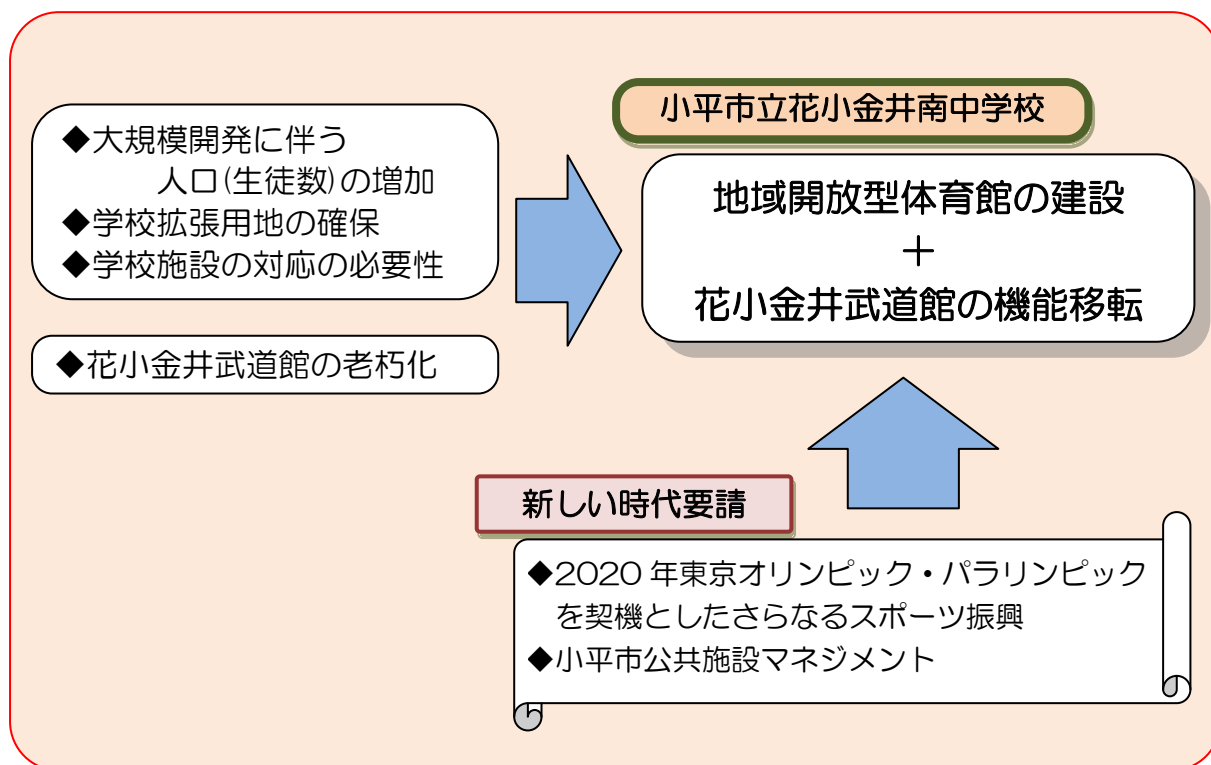
一方、小平市立花小金井武道館（以下、「花小金井武道館」という。）は昭和50年の開館以来、柔道や剣道、空手などの武道をはじめ、近年では軽体操やダンス、卓球など多種目のスポーツに利用され、地域の身近なスポーツ施設として、多くの市民に利用されてきました。しかし、築40年を経過し、施設の老朽化が進み、課題となっています。

他方、近年の状況の変化として、平成32年（2020年）に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定され、スポーツ振興の気運が高まっています。市では、平成27年度にスポーツ行政の所管を教育委員会から市長部局に移し、まちづくりにおけるスポーツ振興を一層進めています。

また、公共施設マネジメントの面では、サービスや機能を維持・向上させながら、財政負担を抑えつつ老朽施設の更新を図ることが課題となっています。

以上のことを踏まえ、今後、市としてこの用地に建設を予定している地域開放型体育館整備及び花小金井武道館の機能移転に関する基本方針をまとめるものです。

## 本方針の全体イメージ



# 花小金井南中学校の概要

## 1. 学校概要と施設の現状

花南中は、市の東部に位置する学校で、昭和53年4月に開校し37年が経過しました。通学区域は花小金井南町の全域、花小金井一丁目、花小金井六丁目と鈴木町二丁目の一部、御幸町の全域で、他の中学校の調整区域として、花小金井二・三・七丁目、鈴木町一丁目と回田町の一部も含まれています。

開校当時は小平第三中学校の分校として、第1・2学年7学級で構成され、生徒数291人、教職員数18人でした。

平成27年度は、通常の学級14学級、特別支援学級3学級、生徒数515人、教職員数31人（平成27年5月1日現在）となっています。

学校施設は、開校時及び平成23年に増築された校舎（鉄筋コンクリート造地上4階）、プール（昭和53年竣工）、体育館（鉄筋コンクリート一部鉄骨造、昭和53年竣工）等があります。

## 2. 取得した土地の概要

取得した土地は、現在の学校敷地の西に隣接した南北約68m、東西約28m、約1,900㎡の宅地で、地域開放型体育館の建設敷地として、平成19年12月に小平市土地開発公社が購入し、平成22年12月に市が取得しました。

- 土地の表示 花小金井南町一丁目890番52
- 地積 1,899.24㎡
- 地目 宅地

### 3. 近隣の土地利用状況

#### (1) 開発事業による集合住宅の建設

花南中の南側にあったNTT花小金井東社宅が廃止され、平成 19 年 3 月に民間事業者が土地を取得し、前記の土地を市に譲渡することを前提に、同年 10 月に土地利用構想を市に届出しました。その後、開発事業が延期されていましたが、平成 27 年 4 月に改めて土地利用構想が届出されました。

この構想によると、62,396.50 m<sup>2</sup>の事業区域のうち東側の敷地（以下「A 敷地」という。）に 922 戸の集合住宅を建設するというものです。事業区域西側の敷地（以下「B 敷地」という。）の計画は未定とされています。

A 敷地の事業スケジュールは、平成 28 年 1 月に事業着手し、平成 30 年 3 月に事業完了予定とされています。

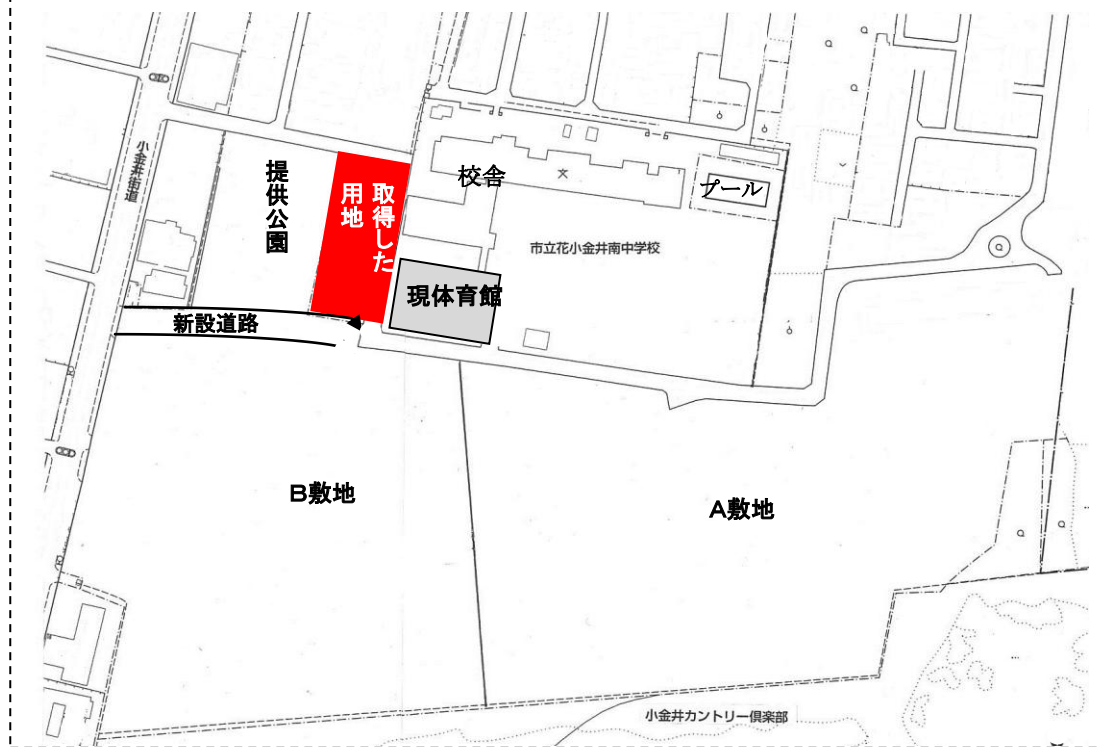
#### (2) 周辺の土地利用状況

花南中の敷地及び周辺は、第一種中高層住居専用地域（建蔽率／容積率：60／200）であり、花小金井駅から徒歩圏で、一般の戸建住宅や集合住宅が立ち並ぶ住宅地です。

また、同校付近の小金井街道及び鈴木街道の沿道は第二種中高層住居専用地域（建蔽率／容積率：60／200）で、ファミリーレストランや小規模な店舗、併用住宅、マンションなどが立ち並び、土地利用としては流動的な要素は少ないと考えられます。

このほか、同校の通学区域全体では、社宅等の跡地における大規模な宅地開発などによる人口増加が見込まれる地域が含まれています。

#### 取得用地 及び 開発事業予定地



## 4. 人口動態と生徒数の推計

学校南側の新規開発のA敷地には 922 戸の住宅が建設されることが明らかにされています。さらに、仮にB敷地に集合住宅の建設が計画された場合には当該地域に 4,000 から 5,000 人の人口が集積する可能性もあります。

この新規開発により 922 世帯が増えたと仮定し、花南中に関して平成 27 年 10 月に推計した生徒数、学級数の見込みは次表のとおりです。現在の 14 学級が、平成 39 年度までには最大 21 学級まで増える見込みで、普通教室の不足が見込まれることから、通学区域の見直しや校舎増築等の対応も計画的に進めていきます。



## <花南中生徒数の推計>

年度 (平成)	27	28	29	30	31	32	33
生徒数 (人)	497	517	504	548	554	564	544
学級数 (学級)	14	15	15	16	16	16	15

年度 (平成)	34	35	36	37	38	39
生徒数 (人)	576	614	654	691	702	746
学級数 (学級)	17	18	19	20	20	21

\*平成27年5月現在の数値をもとに推計。

\*平成27年度は実績値。28～39年度は、平成27年12月1日施行の通学区域による推計値。

\*開発事業区域のA敷地への入居者は、平成30年度以降の生徒数に反映させた。B敷地については、計画が未定のため、推計には反映させていない。

\*小平第三中学校及び小平第六中学校の通学区域のうち、花南中への調整区域については、過去3年の実績の平均値を用いた。

# 花小金井武道館の概要

## 1. 花小金井武道館の概要と施設の現状

花小金井武道館は、利用者が快適かつ安全に利用できる施設環境を確保し、武道をはじめとして様々なスポーツの向上を図ることを目的に、昭和 50 年 4 月に開館したスポーツ施設です。柔道場、剣道場、弓道場、更衣室等を備え、第一月曜日、年末年始等を除き、年間 340 日程度開館しています。

敷地は、都市計画法上の用途地域では、第二種中高層住居専用地域と第一種低層住居専用地域にまたがっており、一部が青梅街道風致地区に指定されているほか、敷地全体が都市計画公園（武蔵公園）に指定されています。

長年、市の東部地域に位置するスポーツ施設として地域に根差し、市民をはじめ、小平市体育協会加盟団体や一般団体などの各競技団体に利用されてきました。

利用内容は、柔道や剣道、空手などの武道のほか、多種目のスポーツに利用されているとともに、小平市体育協会加盟団体による市民向け各種スポーツ教室が開催されています。

このように、多様な市民ニーズに応じて利用されてきた花小金井武道館ですが、目標耐用年数の 40 年を超え、老朽化が進んでいます。

- 所在地 花小金井八丁目 26 番 15 号
- 敷地面積 1,282.13 m<sup>2</sup>
- 延床面積 809.51 m<sup>2</sup>
- 建築年 昭和 50 年
- 施設概要
  - ・第1道場 214.75 m<sup>2</sup> (104 畳)
  - ・第2道場 253.15 m<sup>2</sup> (板床)
  - ・弓道場 73.38 m<sup>2</sup> (3人立)
  - ・その他 更衣室・倉庫



## 2. 花小金井武道館の利用状況等

### (1) 利用人数の推移

花小金井武道館は、年間延べ5万人を超える方が利用されていましたが、近年は4万5千人前後で推移しています。

年度(平成)	17	18	19	20	21
延べ利用者数(人)	56,863	55,333	52,183	52,852	53,263
1日平均利用者数(人)	164.3	160.4	150.8	153.2	153.9
利用団体数(団体)	36	36	37	35	35
利用率(%)	51.6	51.6	49.2	49.2	50.0

年度(平成)	22	23	24	25	26
利用者数(延べ人数)	46,514	47,280	47,288	46,855	44,569
1日平均利用者数(人)	140.1	136.3	137.0	135.8	129.2
利用団体数(団体)	38	39	37	36	35
利用率(%)	51.6	53.2	51.6	50.8	50.0

### (2) 決算額の推移

花小金井武道館の維持管理経費は、400万円程の使用料収入がありますが、総コスト(支出)は1千600万円程度となっています。

(単位：千円)

年度(平成)	17	18	19	20	21
総コスト(支出)	15,622	15,385	15,509	15,720	15,170
使用料(収入)	4,034	4,065	4,051	4,234	4,447
市の負担(一般財源)	11,588	11,320	11,458	11,486	10,723

年度(平成)	22	23	24	25	26
総コスト(支出)	15,512	16,240	15,786	15,560	16,237
使用料(収入)	3,924	4,437	4,224	4,264	4,308
市の負担(一般財源)	11,588	11,803	11,562	11,296	11,929

# 新しい時代要請の視点

## 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック

平成25年9月、2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定しました。都内では、競技会場の整備、都と市区町村との連絡協議会による準備、多言語化への対応、情報通信技術の活用による観光の強化などが行われています。

市でも、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、さらなるスポーツの振興及び地域の活性化を推進するため、文化とスポーツを融合し相乗効果を図りながら、ジュニア世代の競技力向上やスポーツボランティアの育成など、気運醸成に向けた事業を実施していきます。

学校では、東京オリンピック・パラリンピック教育推進校の指定により、オリンピックの歴史や意義、諸外国の歴史や文化、習慣などを学び、交流を通して国際理解を深め、平和な社会に貢献できる教育の取組を実践しています。

また、各校では、体育、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、外部講師を招いた実技指導や講演会の開催など、東京オリンピック・パラリンピックの気運を意識した授業や体力向上の取組を行っています。

## 2. 公共施設マネジメント

市では、これまで多くの公共施設により行政サービスの充実を図ってきましたが、施設の老朽化が進むとともに、今後予想される人口減少や少子高齢化により、公共施設を取り巻く環境が大きく変化することが予想されます。このことから、将来を見据えた公共施設について様々な検討を行っています。

平成25年度に小平市公共施設データ集を、平成26年度には小平市公共施設白書を作成し、分析や課題整理を進め、これらの基礎資料をもとに、平成27年度には小平市公共施設マネジメント基本方針を策定しました。

平成28年度には（仮称）小平市公共施設適正配置実施計画を策定していく予定です。

こうした取組を通して考え方の整理や個々の施設のあり方について、市全体として方向性を定めていくこととなりますが、一方で、花南中体育館や花小金井武道館など一部の施設については、並行して検討を進めていく必要があります。

【小平市公共施設マネジメント基本方針（抜粋）】

基本理念「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」

4つの方針

1 魅力あるサービスの実現（サービスの最適化）

時代やニーズの変化を的確にとらえ、新たな価値を創造し、満足度の高い魅力あるサービスの実現を目指します。

2 持続可能な施設総量（量の最適化）

公共施設の延べ床面積を縮減するなどの効果的な対応により、行政需要や財政規模に見合った将来世代まで持続可能な施設総量や配置の適正化を図ります。

3 コストの縮減と平準化（コストの最適化）

将来世代の大きな財政負担としないように、公共施設の整備や維持管理等のすべてのコストの縮減、平準化を図ります。

4 長く活用できる施設（性能の最適化）

可変的な施設づくりや適切な保全を実施し、安全・安心な施設を維持することにより、保有する施設を長期的に活用するとともに、防災、環境、福祉などの対応を図ります。

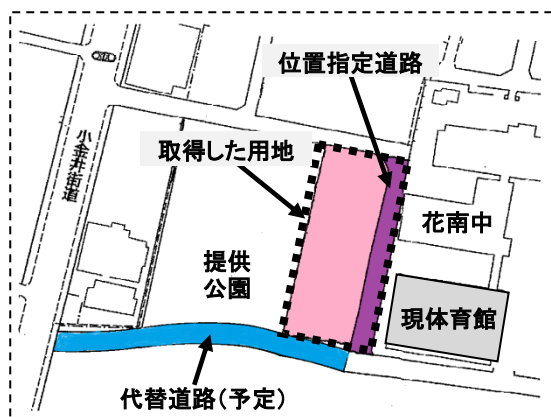
また、「小平市のスポーツ振興の基本方針」（平成 22 年 3 月）では、体育施設の整備及び管理、運営について「厳しい財政環境や施設の維持管理経費の増加が予測される状況下におきましては、効率的な体育施設の管理、運営をはじめ、公共施設として全庁的な取組の中で、既存施設のあり方を検討します。」と述べています。

# 事業実施の方向性

## 1. 花南中拡張用地は学校用地として整備

平成 19 年 12 月に小平市土地開発公社は、学校との間にある道路（位置指定道路）を含め、花南中の拡張用地として購入しました。しかし、現在の学校敷地と一体的に整備を行うには、この位置指定道路を廃止する必要があります。

平成 27 年度になって、開発事業者に動きがあり、位置指定道路の代替道路を、開発事業者が整備することになったため、位置指定道路を廃止し花南中の拡張用地の整備を行います。



## 2. 花南中に地域開放型体育館を整備

学校南側の開発後には人口増が見込まれる一方で、東部地域には、市中央部の小平第一中学校、市西部の小平第六小学校のような地域開放型体育館がないことから、これまでも、身近な地域で気軽にスポーツに親しむ環境が求められていました。

「小平市のスポーツ振興の基本方針」（平成 22 年 3 月）では、今後の体育施設等のあり方を示し、学校体育施設の有効活用について述べています。

ここでは、「これまでも市の体育施設を補完する施策として、市立学校の体育館や校庭が個人開放及び団体開放により市民に活用されています。今後も市の体育施設を補完するスポーツ施設としての必要性は高いことから、既存の体育施設との配置バランスを考慮したうえで、地域の生涯スポーツの拠点として有効活用を図ります。」としています。

市では、以前から学校施設のスポーツ開放や遊び場開放を実施していますが、特に、建替えを契機として、学校施設でありながら地域の方々の利用に配慮した体育館を地域開放型として、小平第一中学校、小平第六小学校に整備してきました。

よって、花南中の体育館についても、東部地域では初めてとなる地域開放型体育館として整備を行うこととします。

花南中地域開放型体育館は、取得した土地に南北方向に長く配置し、施設の概要は以下のとおり予定しています。

なお、基本設計にあたっては、市民説明会等においてご意見をお聴きしながら実施していきます。

地域開放型体育館建設後は現体育館を取り壊し、その跡地は学校用地として活用を図ります。

項目	整備の方向性
アリーナ	アリーナ（約800㎡）は、バスケットコート1面、バレーボールコート1面、バドミントンコート3面などを想定
武道場	柔道・剣道・ダンスなど多目的に使用（約300㎡）
多目的室	教室・スポーツ・ミーティング等に使用
警務員室 休憩室	警務員の控室及び傷病人の休憩室として使用
トイレ・更衣室	生徒用・利用者用のトイレ（だれでもトイレ）、更衣室
倉庫	アリーナ及び武道場にそれぞれ設置
玄関	地域開放用玄関と生徒用の出入口を分け、動線が重ならないようにする

\* 防災機能、省エネルギー、ユニバーサルデザイン（エレベーターの設置を含む）にも配慮します。

### 3. 花小金井武道館の機能を移転

花小金井武道館は、平成 26 年度に築 40 年を迎え、施設の目標耐用年数を経過したことから、市の公共施設マネジメントの観点から踏まえ、建替えをせずに、新設する花南中地域開放型体育館に機能の一部を移転します。

花南中地域開放型体育館は東部地域におけるスポーツ施設を補完するものとして整備していきます。

そのほか、武道ができる場所として、市民総合体育館のほか、小学校の体育館や小平第一中学校の武道場などがあり、軽体操やダンスなどは、公民館や地域センターでも活動していることから、これらの施設に花小金井武道館の機能を移転するとともに、民間施設等の借上げも検討していきます。

なお、花南中地域開放型体育館に弓道場の機能移転はできないことから、弓道場利用者と、活動の場の確保について引き続き検討していきます。

また、花南中地域開放型体育館に機能移転するまでの間、安全に使用できるよう本年度行った耐震診断の結果に基づき耐震補強工事を行います。

花南中地域開放型体育館建設後は花小金井武道館を取り壊し、その跡地利用については、敷地全体が都市計画公園（武蔵公園）に計画決定されていることから、新たに公共施設を建設することはせずに、今後、庁内関係部署において検討を行っていきます。

### 4. 地域開放型体育館の活用

小平第一中学校及び小平第六小学校と同様に、開放時間等については学校教育に支障のない範囲で運用しますが、「小平市のスポーツ振興の基本方針」により、学校体育施設の有効活用を図るため、学校と調整を進めていきます。

また、地域開放型体育館として運用することの利点を活かし、学校教育における授業や部活動などの場面で学校と利用団体との連携を図り、生徒の体力向上やジュニア選手の発掘・育成につなげていくとともに、スポーツを通じて世代を超えた交流の場づくりを目指していきます。

スポーツを通じたコミュニティの拠点として活用することで、東京オリンピック・パラリンピックを通して醸成された地域の活性化を、さらに推進していきます。



## 今後の予定

年度	月	手続き	花南中地域開放型体育館	花小金井武道館
27	2 3	基本方針の確定 武道館利用者説明会		武道館の臨時休館
28		市民説明会(保護者・地域)	基本設計着手	耐震補強設計着手 同 完了 同 工事契約・着工
29		市民説明会(保護者・地域)	基本設計完了 実施設計着手	耐震補強工事完了 武道館の使用再開
30			実施設計完了	
31			工事契約・着工	
32			工事完了	
33	4	供用開始	現体育館の取り壊し	武道館の閉鎖・取り壊し

\* 社会情勢により、設計・工事日程については見直しを行うことがあります。

小平市立花小金井南中学校地域開放型体育館建設 及び  
小平市立花小金井武道館機能移転の 基本方針

平成 28 年 2 月発行

事務局：小平市教育委員会教育部教育総務課  
地域振興部文化スポーツ課  
企画政策部行政経営課

電 話：042-346-9569（教育総務課）【花南中地域開放型体育館に関すること】  
042-346-9833（文化スポーツ課）【花小金井武道館に関すること】  
042-346-9756（行政経営課）【公共施設マネジメントに関すること】

